

新基金（仮称：中部圏地域創生ファンド）について Ver3 ～愛・地球博とあいちモリコロ基金の理念と成果を継承する～

1 趣旨

(1) 中部圏において多種多様な資源を集め、中部圏における市民公益活動を支援し、共創力・地域力を向上させ、強固な中部圏をつくるための「ファンド」です。

* 関東圏は全国的・国際的な「多種多様な」ファンドがあり、関西圏は「大阪コミュニティ財団」がその役割を果たしている。中部圏として民間公益セクター、市民公益活動を育てる、資金循環システムをつくる意味は大きい。

2 取組みの背景

(1) 愛・地球博の剰余金 13 億円を原資に設立されたあいちモリコロ基金は、2017 年の助成事業をもって終了することから、愛・地球博及びあいちモリコロ基金の理念と成果を継承する新たな基金をつくらうという取組みが進められてきました。

(2) あいちモリコロ基金は、愛・地球博協会（豊田章一郎会長）の決定を受けて、地元4団体（愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所、中部経済連合会）が設立したことから、愛知県は、平成 28 年 6 月 8 日、これらの4団体及び学識者とともに、「社会貢献活動支援検討会議」を設置し「新基金」の検討を始めました。

3 あいちモリコロ基金の成果

(1) 平成 27 年、「基金運営委員会」が、平成 26 年までの助成事業(1288 件・約 9 億円 / 申請件数 2945 件)の成果を調査したところ、①助成を受けた事業や団体の成長、②地域への波及について、大きく貢献していることが明らかとなりました。

(2) 採択件数に対する申請倍率は、大規模 277 件(倍率 4.3)、展開期 1045 件(同 2.7)、初期 1623 件(同 2.0)で、大規模事業のニーズが高い。

* 助成金額は、大規模 500 万円・8 件、展開期 100 万円・50 件、初期 30 万円・100 件。

(3) この調査結果もとに、モリコロ基金の成果を継承する「新基金像」を検討するシンポジウムや、新基金を作る賛同署名が開始されました。署名は、平成 28 年 8 月末現在、学識者、行政関係者、市民団体など 3078 件が寄せられています。

* 賛同者及びよびかけ人名簿、署名簿など参照下さい。 <http://www.vns.or.jp/shinkikin.html>

4 新基金のイメージ

(1) 愛・地球博の理念を継承するとともに、①南海トラフ地震対応、②スーパーメガリージョン時代への対応、③高齢化・少子化対応、④地域コミュニティの持続発展、以上を助成事業の新たな主要テーマとし、民間公益セクター及び市民公益団体の育成と活動支援を目的とします。

(2) 支援対象は、非営利部門と営利部門を設定。可否判断は、①事業の公益性、②事業の継続・発展を担う人材・団体の成長を重視します。

(3) 新基金は公的資源と民間資源で構成されます。前者は民間資源を受け入れる基盤となるもので、後者は臨機応変な支援・助成に活用されます。

* 公的負担について、運営費を生み出す「出捐」、事務所および人員の派遣等基盤支援を想定。

(4) 新基金は活動が持続発展する仕組みを備えます。①信頼される運営、②寄付者との意思疎通、③支援事業のサポート、が必須のことになります。

* 一般財団法人で発足し 3 年～5 年で公益財団に転換。資金循環は 5 年～10 年で安定的軌道にのせる。

* 「新基金」の参考例として、大阪商工会議所が中心となり、大阪府、大阪市とともに 1991 年に設立した「大阪コミュニティ財団」がある。事務所は大阪商工会議所ビル内にあり、スタッフは大阪商工会議所からも派遣している。

* 寄付者の意思に沿って運営される個別基金がおおよそ 200 あり、共同運営されていて、「マンション型財団」ともよばれる。助成金や寄付金は全国・世界から募集し、全国・世界へ助成・寄付しています。

* 支援事業へのサポートは、NPO の中間支援組織・専門家ネットワークが担う。

“新基金(仮称:中部圏地域創生ファンド)”のイメージ案 Ver3(2016.9)
★「共創力」・「地域力」の向上、民間公益セクターの活性化、市民公益活動を育てる！
～中部圏の資源を集めて、中部圏に投入、強靱な「中部圏」をつくる～

